

氏名	みき いさお 三木 勲
学位(専攻分野)	博士(学術)
学位記番号	博甲第792号
学位授与の日付	平成28年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科 造形科学専攻
学位論文題目	アルベルティの建築理論における表現媒体を示す言葉と概念 についての研究—lineamentum を中心に—
審査委員	(主査)教授 中川 理 教授 石田潤一郎 教授 西田雅嗣 講師 赤松加寿江

論文内容の要旨

本論文は、初期ルネサンスの建築理論家であるレオン・バッティスタ・アルベルティの建築理論における表現媒体を示す言葉と概念について、特に lineamentum に着目しながら、残された文章を詳細に検証・分析するという方法でもって三章にわたる分析から明らかにしたものである。

第一章で、アルベルティの建築理論における lineamentum を取り上げ、その概念が持つ基本的な性質について明らかにした。アルベルティの建築理論における lineamentum の概念とは、本質的に、物体の外形を形作る線を表現媒体として示すものである。それは、いわば輪郭であるが、limbus という概念により示される二つの場面で顕在化するもので、もともと想定上の線であることが明らかとなった。

第二章で、第一章の成果をもとに、同概念の建築設計上の表現媒体としての側面について perscriptio という概念がどのように使われているのかを検証することで明らかにした。アルベルティにおける lineamentum の建築設計上の表現媒体としての側面とは、本質的に、幾何学上の表現媒体 (perscriptio) を類推的に表象 (代理) する表現媒体 (signum) であり、それは、いわば準幾何図形であることが明らかになった。ただしその図形は、上述の limbus の概念によって示される二つの場面で lineamentum により初めて顕在化するものであった。

第三章では、第一・二章の成果をもとに、lineamentum についての解釈を補完する試みとして、アルベルティの建築理論における pictura という概念が持つ表現媒体としての側面についての解釈の提示を行った。アルベルティの建築理論における pictura は、本質的に、物体を特定の画面上の signum (図形) として表象 (代理) する二次元表現媒体であり、それはいわば図面、より正確には設計図 (下図) であることが明らかとなった。

以上の検証・分析から、アルベルティの表現媒体を示す言葉と概念は、彼の彫刻理論・絵画理論も横断しながら、輪郭 (lineamentum)、図形 (signum)、図面 (pictura) など、その後一般化されていく建築における表現媒体の元となる原初的な概念の成立の過程を示すものとして捉えられることがわかった。

論文審査の結果の要旨

この論文は、初期ルネサンスの建築理論家で、その後確立していく建築設計理論において最も重要な役割を果たした建築家として知られるアルベルティに改めて着目し、その建築理論構築の土台となる言葉と概念を、残されたラテン語の理論書の文章から検証したものである。そこで取り上げたのは、実際の建築を表象する表現媒体の概念である。もちろん、それを示す中心的な言葉・概念としてある *lineamentum* などは、従来からさまざまな解釈が加えられてきた。しかし、それらは言葉としての解釈という限界があったのも事実であり、またアルベルティが残した絵画や彫刻などの理論書まで含んだ上での解釈もほとんどなかったという状況もある。そこで、この論文では、そうした従来までの限界を批判的に乗り越える方法を持って、改めてその言葉と概念を明らかにしようとしたものである。

表現媒体にかかわる概念とそれを示す言葉は、建築が実物を表象する図面等の媒体を通じて表現され生産されていくことを考えれば、きわめて重要なものである。同時に、その言葉と概念は、常に具体的なモノとしての建築物を捉えるものとなっていてはならない。そこで、この論文では、アルベルティが示すそうした言葉を、常に具体的な線、面、図形、図面などとの関係から検証しようとしている。つまり、言葉を検証しながらそれを単なる言語としての解釈ではなく、それを超える方法を提示している。この言語解釈の方法は新鮮なものであり大きく評価できるであろう。

そして、その方法により、三次元のいわゆる視角ピラミッドを構築し、そこに表現媒体を示す言葉がどのように当てはめられていくものかを検証している。その結果として、アルベルティの建築理論においては、線から面へ、面から図形へ、さらにその図形が図面へと、表現媒体として表されていく様子を明らかにすることに成功している。それは、その後一般化されていく建築における表現媒体の元となる原初的な概念の成立の過程を示すものとして捉えられるものであり、その成果は、単にアルベルティの建築理論の解明という範囲を超えて、建築あるいは建築設計という技能がどのように構築されてきたかという、本質的なテーマに大きな示唆を与えるものとなっていると言えるだろう。そうした意味でも、学術的価値は高いと判断される。

なお、本論文の内容は、以下の審査制度の確立した学術学会誌（日本建築学会論文集）に公表されたか、または公表が予定（採用決定）されている。

- ① 三木勲・中川理「アルベルティの建築理論における *lineamentum* の基本的性質について—絵画理論・彫刻理論における *lineamentum* とそれに関係する他の概念に関する考えを参照して」、日本建築学会計画系論文集、第 674 号、pp.921-930、2012 年 4 月
- ② 三木勲・中川理「アルベルティの建築理論における *lineamentum* の建築設計上の表現媒体としての側面について—*lineamentum* の基本的性質をもとに」、日本建築学会計画系論文集、第 699 号、pp.1229-1238、2014 年 5 月
- ③ 三木勲・中川理「アルベルティの建築理論における *pictura* の建築設計上の表現媒体としての側面について—*lineamentum* についての解釈をもとに」、日本建築学会計画系論文集、2016 年 3 月（掲載予定）